

# Ⅲ 財務の概要

## 1 資金収支計算

資金収支計算について、予算と決算の差異が生じた主な内容を報告します。

### 資金収支計算書

#### ●収入の部

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	36,671	36,310	360
手数料収入	2,889	3,034	△ 145
寄付金収入	800	426	374
補助金収入	4,608	4,548	60
資産運用収入	625	656	△ 31
資産売却収入	3,500	3,596	△ 95
事業収入	356	458	△ 102
雑収入	901	1,045	△ 144
借入金等収入	2	1	1
前受金収入	6,372	6,263	109
その他の収入	3,746	3,637	109
資金収入調整勘定	△ 6,891	△ 7,532	641
当年度資金収入合計	53,578	52,441	1,136
前年度繰越支払資金	6,670	6,970	
収入の部合計	60,248	59,412	836

休学・離籍等により授業料収入が見込みを2.7億円下回り、また、飛行訓練実習の受講実績により実習料が見込みを0.9億円下回りました。

入学検定料が見込みを1.6億円上回りました。

募金事業が見込みを下回りました。

主として、2015年度学部入学者数が見込みを下回ったことにより、前受金収入が減となりました。

修繕工事費等の費用が見込みを下回ったことにより、財源となる減価償却引当特定資産からの取崩し額が減となりました。

#### ●支出の部

科目	予算	決算	差異
人件費支出	26,141	26,013	127
教育研究経費支出	11,558	11,337	221
管理経費支出	1,776	1,776	0
借入金等利息支出	51	51	0
借入金等返済支出	1,492	1,492	0
施設関係支出	3,191	2,055	1,136
設備関係支出	814	805	9
資産運用支出	5,249	7,755	△ 2,506
その他の支出	1,357	2,630	△ 1,273
[予備費]	(157) 343	—	343
資金支出調整勘定	△ 1,165	△ 1,074	△ 91
当年度資金支出合計	50,806	52,840	△ 2,034
次年度繰越支払資金	9,441	6,571	2,870
支出の部合計	60,248	59,412	836

概ね予算と同水準となりました。

総合管理業務等の委託費用が見込みを下回りました。

修繕工事等の費用が見込みを下回りました。

主として、長期有価証券の購入により、増加しました。

主として、2013年度の期末未払金の増加により、前期期末未払金支払支出が増加しました。

当年度資金収支差額

科目	予算	決算	差異
当年度資金収支差額	2,771	△ 399	3,170

(注1) 上記の表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合がある。なお、以下の表についても同様である。

(注2) 予算額は、予備費充当後の金額である。

## 資金収支計算の中の経常的収支計算

(単位:百万円)

	科目	予算	構成率(%)	決算	構成率(%)	差異
(A) 経常的収入	総 額	36,671		36,310		360
	(△)教育充実費	△ 7,497		△ 7,446		△ 51
	学生生徒等納付金収入	29,174	74.5%	28,864	74.3%	309
	手数料収入	2,889	7.4%	3,034	7.8%	△ 145
	総 額	800		426		374
	(△)特定資金のための寄付金	△ 117		△ 130		13
	寄付金収入	683	1.7%	297	0.8%	386
	総 額	4,608		4,548		60
	(△)研究設備補助金他	△ 77		△ 63		△ 13
	補助金収入	4,531	11.6%	4,484	11.5%	47
	資産運用収入	625	1.6%	656	1.7%	△ 31
	事業収入	356	0.9%	458	1.2%	△ 102
	雑収入	901	2.3%	1,045	2.7%	△ 144
	計	39,158	100.0%	38,838	100.0%	320
(B) 経常的支出	総 額	26,141		26,013		127
	(△)退職金支出	△ 1,073		△ 1,317		243
	(△)年金特別繰入経費	△ 1,680		△ 1,680		0
	退職資産への繰入支出	1,534		1,534		0
	人件費支出	24,921	63.6%	24,550	63.2%	371
	総 額	11,558		11,337		221
	(△)建設事業に係わる経費	△ 695		△ 982		287
	教育研究経費支出	10,863	27.7%	10,355	26.7%	508
	総 額	1,776		1,776		0
	(△)建設事業に係わる経費	△ 30		△ 67		36
	管理経費支出	1,745	4.5%	1,709	4.4%	36
借入金等利息支出	51	0.1%	51	0.1%	0	
計	37,580	96.0%	36,665	94.4%	915	
(C)	(A-B) 経常的収支差額	1,578	4.0%	2,173	5.6%	△ 595

(注1) 経常的支出の構成率は、経常的収入合計に対する比率である。

(注2) 予算額は予備費充当後の金額である。

学生生徒等納付金収入が見込みを下回ったことなどにより経常的収入は3.2億円減少しましたが、人件費支出及び教育研究経費支出が見込みを下回ったことで、経常的収支差額は予算を6億円上回る21.7億円となりました。

### 財務諸表の説明(資金収支計算書について)

資金収支計算書は、現金・預金などのすべての資金の動きとその内容を表しています。  
以下、勘定科目名だけでは内容がはっきりしないと思われるものについて説明します。

#### (収入の部)

収入の部では、どのような勘定科目(内容)で当該年度に現金・預金を受け入れたかが分かります。

・ 学生生徒等納付金収入	この金額は、いわゆる「学費」であり、授業料、入学金、実験実習料など学生生徒から徴収する収入です。
・ 手数料収入	この金額のほとんどは受験料収入です。
・ 資産運用収入	本学が保有する奨学基金をはじめとする資産(預金・債券など)を運用して得た収入が大半を占めます。
・ 資産売却収入	保有する有価証券で満期償還を迎えたものや売却したことで得たものです。
・ 事業収入	様々な課外講座の開講に伴う受講料収入や外部機関などからの依頼に基づく受託研究収入により構成されています。
・ 雑収入	私立大学退職金財団に掛け金を支払ってきたことで、退職金の支払い時に交付される金額がほとんどです。
・ 前受金収入	主に新入生の入学手続きが入学の前年度中に行われるため、その分を前受金として受け取っています。
・ その他の収入	退職金の支払いに備え積み立ててきた退職給与引当特定資産から退職金と同額を繰り入れたこと、および、予め積み立ててきた特定資産の取り崩しなどによります。
・ 資金収支調整勘定	資金収支計算書が現金・預金の動きを表すことを目的にしているにも拘わらず、当該年度分の収入ではありませんが実は未だ資金を受け取っていないものや、逆に前年度以前に資金を受け取っているにも拘わらず当該年度に受け取っているように表しているものを調整しています。
・ 前年度繰越支払資金	これは前年度末時点での現金・預金の有り高を表しています。

#### (支出の部)

支出の部では、どのような内容で支出したのかが分かります。

・ 施設関係支出	土地、建物などの取得費用です。また、数年度にわたり行われる大規模工事などは建設仮勘定として完成年度まで計上されます。
・ 資産運用支出	運用目的で有価証券を購入した場合や本学が保有する様々な特定資産に繰り入れる際に計上されます。
・ その他の支出	本来前年度中に支払わなければならなかったもので、当該年度に支払う未払金支払が主な内容となります。
・ 資金支出調整勘定	収入のところで説明した資金収支調整勘定と同じ理由で、支出に関わるものです。
・ 次年度繰越支払資金	当該年度が終了した時点での現金・預金の有り高を表しています。

この次年度繰越支払資金の額ですが、果たして多いのか少ないのか、資金収支計算書から判断することができません。新入生の授業料などの一部は既に入学前年度に受け入れています。また、所得税や住民税などは、給与を支払った翌月に支払うこととなっていますので、その分も残しておかなければなりません。このような最低限残しておかなければならない金額を差し引いた上で、さらに次年度繰越支払資金がどのくらいあるのかが重要となります。これを比率として説明しているのが、本事業報告書42ページに記載している貸借対照表の財務比率(1)のグラフで表している流動比率です。これが100%を超えていれば、最低限確保しておきたい額が確保されている上、それ以上の現金・預金が留保されていることとなります。

### 資金収支計算書に係る本学独自の計算書について

先程の資金収支計算書で、前年度繰越支払資金と次年度繰越支払資金を比べ、増減が発生しています。これは当該年度の収入額と支出額の差異が影響しますが、この内訳をもう少し詳しく見るができるようにしています。33ページに資金収支計算書の中の経常的収支計算という表があります。これは資金収支計算書の中から、経常的に発生する収入と支出を抜き出して示したものであり、経常的に発生する収支の均衡を図り、臨時的に発生するものと峻別することで、法人財政の健全性を維持するようにしています。

## 2 消費収支計算

消費収支計算について、その主な内容を報告します。

### 消費収支計算書

#### ●消費収入の部

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	36,671	36,310	360
手数料	2,889	3,034	△ 145
寄付金	800	500	300
補助金	4,608	4,548	60
資産運用収入	625	657	△ 32
資産売却差額	0	2	△ 2
事業収入	356	458	△ 102
雑収入	901	1,045	△ 144
帰属収入合計	46,849	46,553	296
基本金組入額合計	△ 2,447	△ 1,549	△ 898
消費収入の部合計	44,402	45,005	△ 603

二中高建替工事、(市ヶ谷)一口坂校舎建設工事、(多摩)3号館トイレ改修・空調更新他工事、「開かれた法政21」奨学基金及び借入金返済などにより、基本金組入額は15.5億円となりました。

#### ●消費支出の部

科目	予算	決算	差異
人件費	26,142	25,928	214
教育研究経費	16,990	16,762	228
(内減価償却額)	(5,432)	(5,418)	(14)
管理経費	2,053	2,041	12
(内減価償却額)	(277)	(266)	(12)
借入金等利息	51	51	0
資産処分差額	384	443	△ 59
[予備費]	(157) 343	—	343
消費支出の部合計	45,963	45,225	738

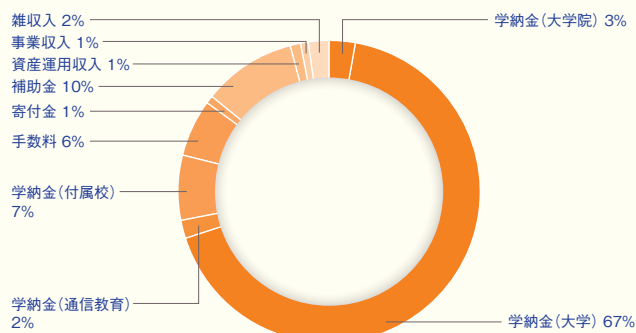
主として、二中高建替工事に伴う建物・構築物などの除却を計上しています。

帰属収支差額	886	1,329	△ 442
帰属収支差額比率	1.9%	2.9%	—
当年度消費支出超過額	1,561	220	
前年度繰越消費支出超過額	47,817	46,521	
翌年度繰越消費支出超過額	49,377	46,741	

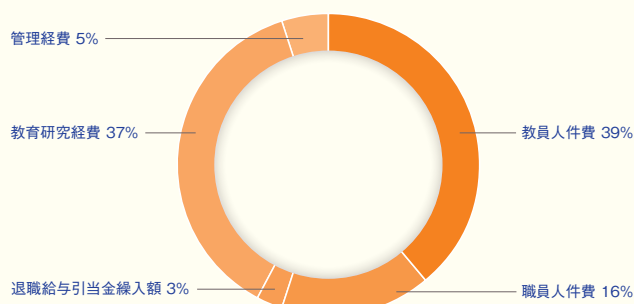
帰属収支差額比率は2.9%となりました。

(注1) 帰属収支差額 = 帰属収入 - 消費支出  
 (注2) 帰属収支差額比率 = 帰属収支差額 ÷ 帰属収入 × 100  
 (注3) 予算額は、予備費充当後の金額である。

2014 年度帰属収入の構成率



2014 年度消費支出の構成率



### Ⅲ 財務の概要

#### 財務諸表の説明(消費収支計算書について)

資金収支計算書では、現金・預金に係る収入・支出全てを表していましたが、消費収支計算書では、収入であれば帰属収入、支出であれば消費支出という概念が出てきます。また、消費収支計算書は消費収入・支出の内容およびその均衡の状態を表す目的で作成されます。

##### (消費収入の部)

• 帰属収入	帰属収入とは負債とはならない収入で、学校法人の事業活動によって得られた当該年度分の収入や現物寄付などが計上され、他人資金である借入金収入などは除外されます。資金収支計算書に表されている勘定科目と比較すると、対象外となっているものがあります。また、似たような勘定科目名ですが若干違っているものもあります。
• 寄付金	資金収支計算書で計上した寄付金以外に、現物寄付が計上されています。
• 資産売却差額	資金収支計算書では、資産を売却した時に受け入れた現金をそのまま計上していましたが、消費収支計算書では保有していた資産の額(取得価格)以上で売却した時にその差額分を計上します。
• 基本金組入額	基本金とは、学校法人の諸活動に必要な資産を継続的に維持するために帰属収入から組み入れるものです。土地や建物など施設関係資産の取得額(第1号基本金)、奨学基金への繰入額(第3号基本金)、1カ月分の運転資金相当額(第4号基本金)などで構成されています。このうち、基本金組入対象となるのは、自己資金で買った額相当となります。自己資金で買ったとは、言い換えれば帰属収入から支出したと考えます。逆に借入金で取得した場合は、借入金を返済する都度返済額と同額を組み入れていきます。学校法人会計では、まず基本金組入額を帰属収入から控除し、差し引き後の消費収入を消費支出の財源とする考え方です。このような考え方は、企業会計では設備投資のための資金がはっきりと区分管理されているのに対し、学校法人会計では消費支出に充当する収入と資本的支出に充当する収入が区分されておらず、全てを帰属収入で賄わなければならない収入構造からきております。つまり、基本金組入額が発生=帰属収入から支出(帰属収入の減)という事実を最初に計算するということです。
• 消費収入	帰属収入から基本金組入額を控除した後の額となります。

##### (消費支出の部)

• 人件費	資金収支計算書では人件費支出の中に退職金支出が含まれていましたが、消費収支計算書では専任教職員の人件費の他退職給与引当金繰入額という科目が現れます。これは、当該年度末に在職する教職員全員の退職金を計算し、その算出された退職金のうちの一定額を引当金として確保するため、前年度末の引当金計上額との差額(不足する額)を追加的に繰り入れるものです。
• 教育研究経費および管理経費	消費収支計算書では、減価償却額という科目が現れます。建物などを取得した場合、資金収支計算書では取得価格の全額が支出として計上されていましたが、消費収支計算書ではそもそも施設関係支出や設備関係支出という科目がありません。これは、消費支出は法人の資産を減少させる要因を対象としますが、建物などは現金・預金から建物と同額で形態変化したと考え、資産の減少は発生していないからです。しかし、取得した建物など資産を活用して教育・研究活動を行っている実態から、使用期間にわたって分散して費用化したものです。
• 資産処分差額	保有していた資産の額(取得価格)を下回って売却した時その差額分を計上します。
• 当年度消費収支差額	帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入と消費支出の差額となります。収入超過であれば、資本的支出(基本金組入額)と経費支出(消費支出)の全てが帰属収入で賄われた結果となります。収入構造が硬直的な学校法人では、消費収支計算において収支均衡を図ることで安定的な経営を維持することが求められます。一方、この消費収支の差額の累積である翌年度繰越消費収入超過額が多額になっている法人に対しては、補助金の減額措置が講じられることとなっています。
• 帰属収支差額	消費収支計算書を基に算出する財務比率は、一般的に帰属収入を基礎とします。それは、消費支出は帰属収入を得るために要した費用と考えるためです。本学においては、経営状態の健全性を維持するために、この帰属収入と消費支出の差額を重要な指標と考えています。なお、この差額の帰属収入に対する比率を、帰属収支差額比率といいます。

消費収支計算書でさらに注目すべき点は、負債償還率です。負債償還率は、当該年度の借入金返済額と利息の合計額の帰属収入に対する割合です。負債償還率は、文部科学省に学部などを設置認可申請する場合の審査基準では、20%以下でなければなりません。これは、学校法人が事業の遂行にあたって過度に借入金に依存することを抑制しているものです。

※本学の負債償還率は、3.3%です。

### 3 貸借対照表

貸借対照表について、その主な内容を報告します。

#### ●資産の部 (単位:百万円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	191,489	192,539	△ 1,050
有形固定資産	132,610	135,788	△ 3,179
その他の固定資産	58,880	56,751	2,129
流動資産	16,307	17,351	△ 1,044
合計	207,797	209,890	△ 2,094

#### ●負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	21,544	22,486	△ 942
流動負債	8,847	11,327	△ 2,480
計	30,391	33,814	△ 3,422
基本金	224,146	222,597	1,549
消費収支差額	△ 46,741	△ 46,521	△ 220
合計	207,797	209,890	△ 2,094

#### (参考)

正味資産	177,405	176,077	1,329
※正味資産＝資産－負債(＝基本金＋消費収支差額)			
減価償却額の累計額	81,605	80,604	1,001
基本金未組入額	8,699	10,941	△ 2,241

正味資産は前年度末から13億円増加しました。

#### 【貸借対照表注記事項】 (抜粋)

##### (1) 有価証券の時価情報

貸借対照表計上額	時価	差額
66,734	68,144	1,410

##### (2) 当学校法人の出資割合が総出資額の2分の1以上である会社

###### (a) 株式会社エイチ・ユー

###### <事業内容>

- 書籍・文具・事務機器等の販売、建物内外の清掃・保守管理・警備、印刷業、一般及び特定労働者派遣事業、有料職業紹介業、一般土木建築工事業など

###### (b) おれんじ・ふおれすと株式会社

###### <事業内容>

- 建物、仮泊施設、体育館、倉庫、その他敷地等の清掃及び保守管理
- 植木・花卉・植栽の剪定、管理、栽培、販売及びリース
- 社内メール便、郵便物、宅配便、小荷物等の発送、配送及び受渡に関する業務の受託 など

##### (3) 本学の学内年金決算における年金財政貸借対照表

借方		貸方	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
年金信託受益権	18,447	支払備金	33
未収掛金	0	責任準備金	32,918
過去勤務債務等の現在額	14,504		
合計	32,951	合計	32,951

### 財務諸表の説明(貸借対照表について)

貸借対照表は、資産の部とそれに対応する負債の部、基本金の部、消費収支差額の部で表されます。

#### (消費収入の部)

- 資産の部 資産の部のうち固定資産は、土地や建物など有形固定資産と長期(1年を超える)で保有する有価証券や特定資産などその他の固定資産で構成されています。流動資産は、現金・預金や短期(1年以内)で運用する有価証券などで構成されます。
- 負債の部 負債の部も固定負債(長期)と流動負債(短期)に分かれます。固定負債は、長期借入金や長期未払金(翌年度中に返済期限が到来しない借入金や支払い期日が到来しない未払金)などです。その他、退職給与引当金も固定負債です。流動負債は、逆に1年以内に返済しなければならない借入金や未払金などです。これ以外では、前受金や預り金も流動負債として計上されます。
- 基本金の部および消費収支差額の部 この基本金と消費収支差額は、自己資金とも言います。負債の部を他人資金と呼ぶのに対応します。

貸借対照表から、計上されている資産がどのような資金で賄われているのかが分かります。自己資金(基本金と消費収支差額の合計)が増えると、貸借対照表の規模も拡大します。また、負債と自己資金の関係で見ますと、例えば借入金など負債が多ければ資産がいくらあっても、当然良い経営状態とは言えません。さらに、文部科学省に学部などを設置認可申請する場合の審査基準では、負債率(貸借対照表に計上されている負債の総額から前受金を除いた額の資産総額に対する割合)が25%以下でなければなりません。

※本学の負債率は、11.6%です。

## 4 財産目録(概要)

財産目録について、概要を報告します。

(2015年3月31日現在)  
(単位:百万円)

資産総額	207,797
内 基本財産	132,691
運用財産	75,106
負債総額	30,391
正味財産	177,405

### ●資産の部

		区分	金額
1 基本財産	土地	1,243,575.41m <sup>2</sup>	39,323
	建物	435,564.02m <sup>2</sup>	76,826
	備品	11,154点	4,452
	図書	1,524,092冊	8,273
	その他		3,816
2 運用財産	現金預金		6,571
	積立金		51,477
	有価証券		15,838
	未収入金		969
	前払金		59
	その他		191
資産総額			207,797

### ●負債の部

		区分	金額
1 固定負債	長期借入金		7,291
	長期未払金		806
	退職給与引当金		13,447
2 流動負債	短期借入金		592
	未払金		1,257
	前受金		6,263
	預り金		735
負債総額			30,391

●正味財産(資産総額-負債総額) 177,405

## 監事監査報告書

学校法人 法政大学  
理事会・評議員会 御中

2015年5月13日

学校法人 法政大学  
監事 西山 俊太郎 ㊟  
監事 足立 敏彦 ㊟  
監事 山重 美登士 ㊟

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人法政大学寄附行為第19条の2の規定に基づき、学校法人法政大学の2014年度(2014年4月1日から2015年3月31日まで)の業務及び財産の状況について監査しました。

#### (監査の概要)

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席し、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、学部長および部局長等より、業務の遂行状況について聴取し、関連書類等を調査するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど、必要と認められた監査手続を実施しました。また、理事会において業務又は財産の状況について意見を述べました。

#### (監査の結果)

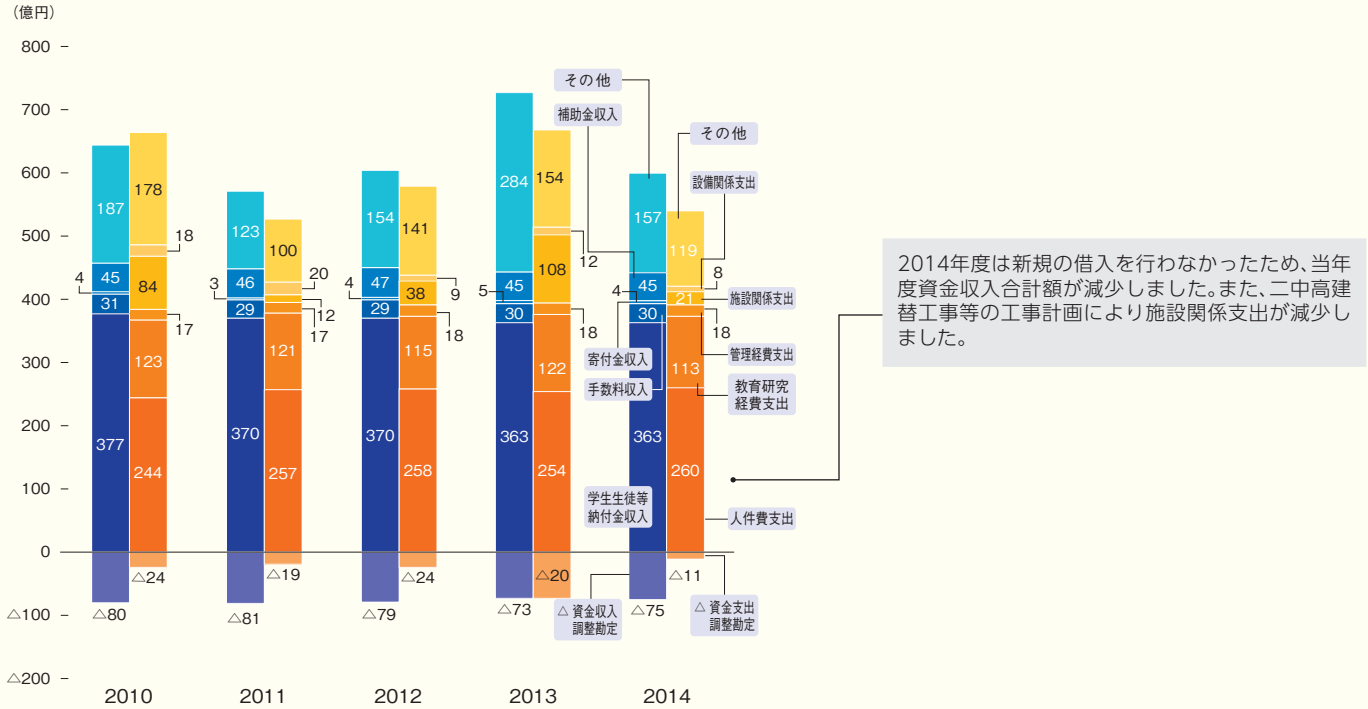
学校法人法政大学の業務に関する決定及び執行は適正であり、計算書類、すなわち、資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表(固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。)並びに財産目録は、その収支及び財産の状況を正しく示しており、業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

## 5 過去5年間の推移

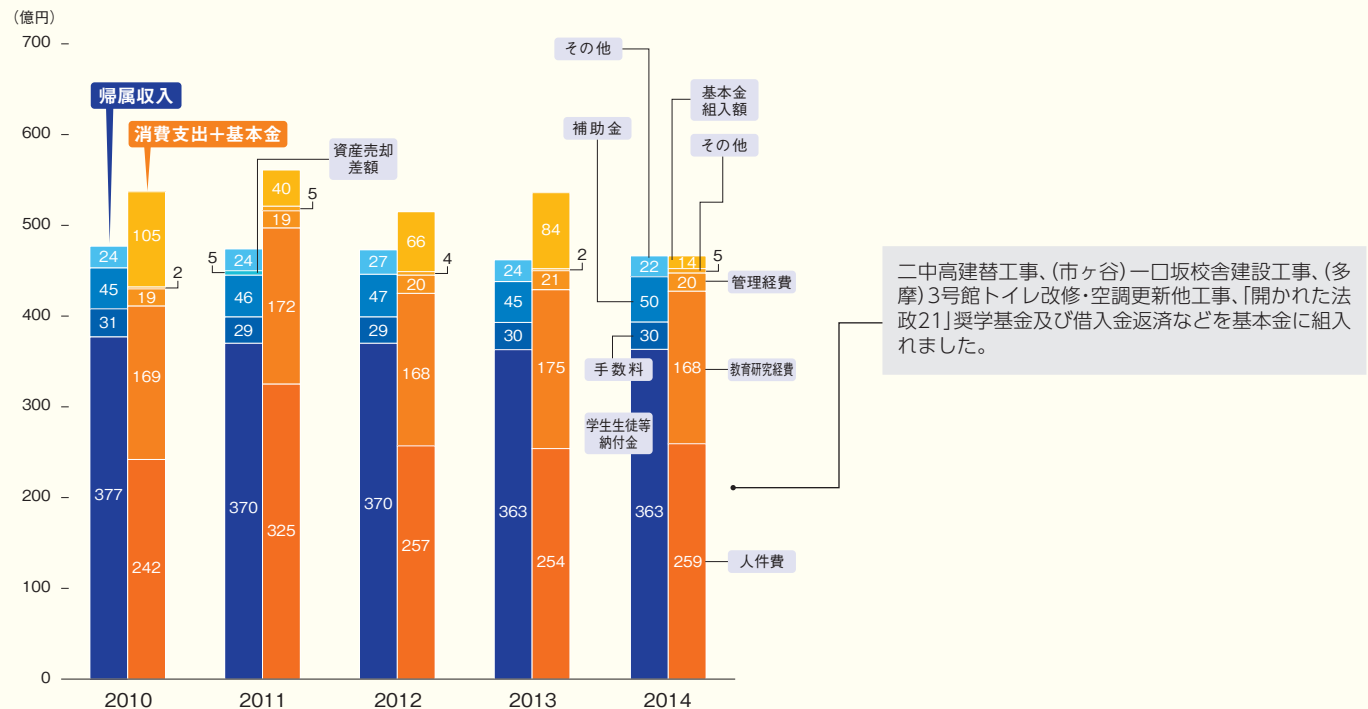
### 資金収支の推移

#### ●資金収支



### 消費収支の推移

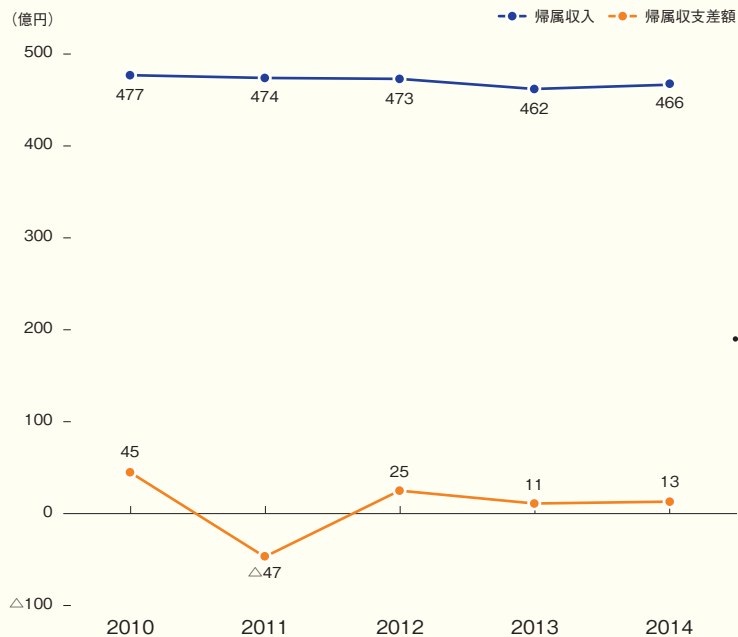
#### ●消費収支





### Ⅲ 財務の概要

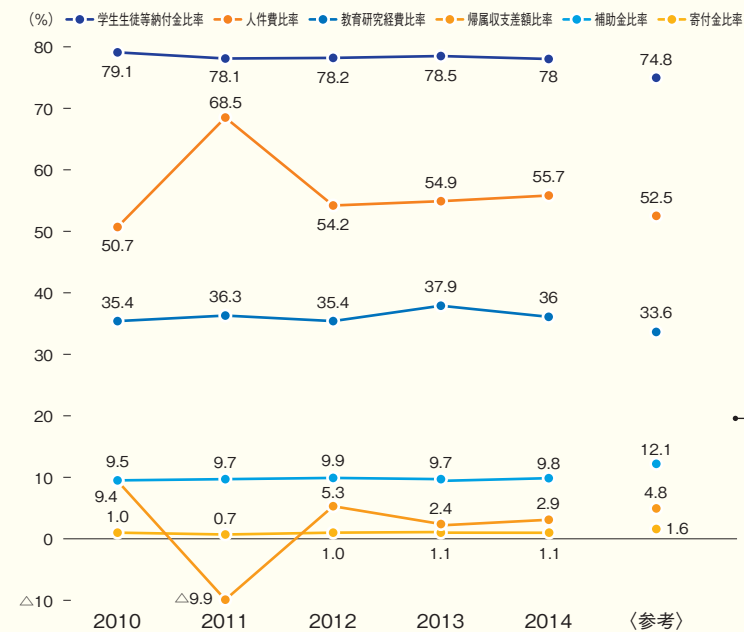
#### ● 帰属収入と帰属収支差額



※帰属収支差額=帰属収入-消費支出

帰属収入は前年度決算並みとなり、経費の削減に努めた結果、帰属収支差額比率は2.9%となりました。

#### ● 消費収支計算の財務比率



〈参考〉は、系統別が理工他複数学部118法人平均(2013年度決算)「今日の私学財政 大学・短期大学編」(日本私立学校振興・共済事業団)

(注) 比率は、各々の帰属収入に対する割合を示している

#### 財務比率の用語説明

##### 【学生生徒等納付金比率】

この比率は、安定的に推移することが経営的には望ましい。

##### 【人件費比率】

この比率が特に高くなると、消費支出全体を大きく膨張させ消費収支の悪化を招きやすい。

##### 【教育研究経費比率】

これらの経費は教育研究活動の維持・発展のためには不可欠なものであり、この比率は消費収支の均衡を失しない限りにおいて高くなることが望ましい。

##### 【帰属収支差額比率】

この比率がプラスで大きくなるほど自己資金は充実していることとなり、経営に余裕があるものとみなすことができる。

##### 【補助金比率】

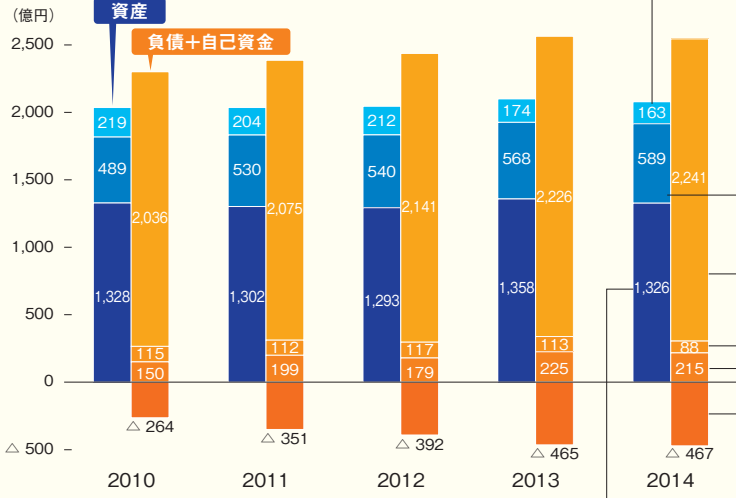
補助金は、学納金に次ぐ第二の収入財源になっており、この比率は自主財源である学納金やその他の収入が安定している限りにおいて高くなることが望ましい。

##### 【寄付金比率】

寄付金は、重要な収入財源であり、一定水準の寄付金収入が継続して確保されることは、経営安定のためには好ましい。

## 貸借対照表の推移

### ●貸借対照表



#### 流動資産

短期有価証券の一部を資金化したことなどにより、流動資産は減となりました。

#### その他の固定資産

減価償却引当特定資産、第3号基本金引当資産への繰入などによりその他の固定資産は増となりました。

#### 基本金

二中高建替工事、(市ヶ谷)一〇坂校舎建設工事、(多摩)3号館トイレ改修・空調更新他工事、「開かれた法政21」奨学基金及び借入金返済などにより、基本金は増加しました。

#### 流動負債

未払金の減などにより流動負債は減となりました。

#### 固定負債

新たな借入を行わず、計画に基づく返済を行ったため、固定負債は減となりました。

#### 消費収支差額

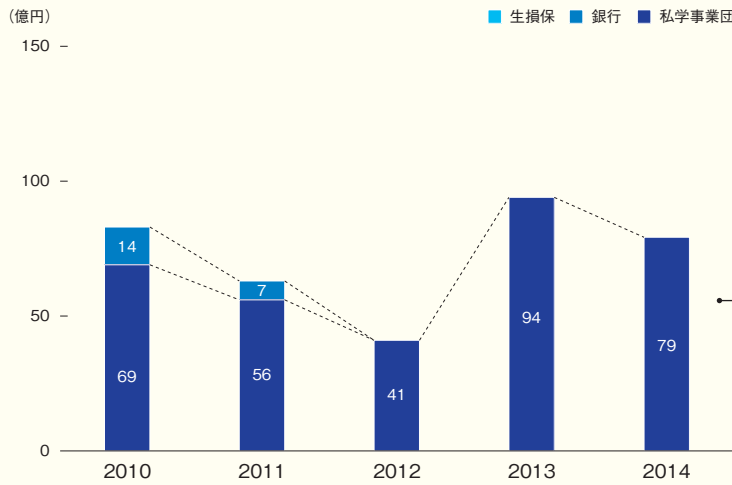
基本金の組入などにより翌年度繰越消費収支差額は対前年度比△2億円となりました。

#### 有形固定資産

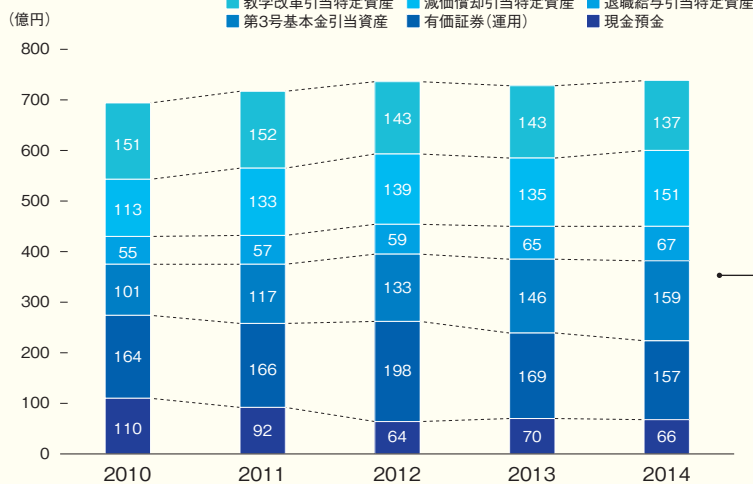
二中高建替工事に伴う除却などにより有形固定資産は減となりました。

新たな借入を行わず、計画に基づく返済を行ったため、借入金残高は減少しました。

### ●借入金残高



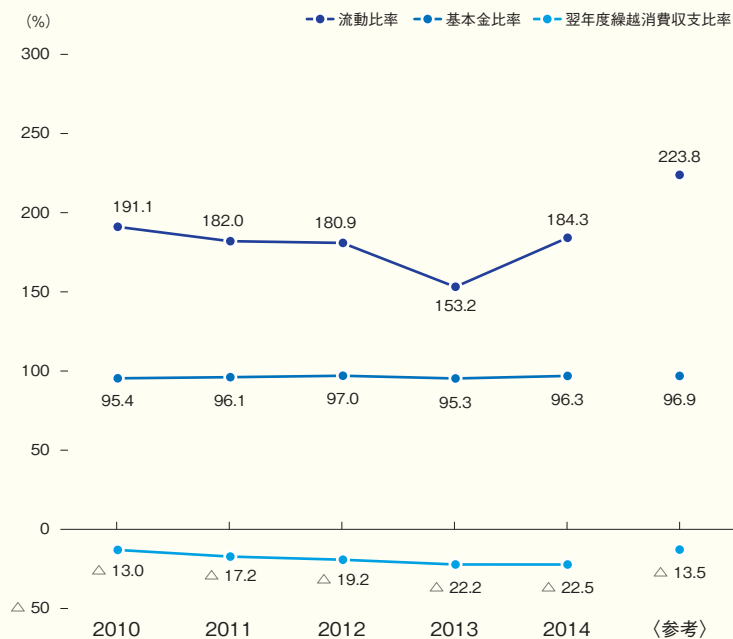
### ●諸引当資産等残高



計画に基づき、第3号基本金引当資産及び減価償却引当特定資産へ繰入を行いました。

### Ⅲ 財務の概要

#### ●貸借対照表の財務比率 (1)

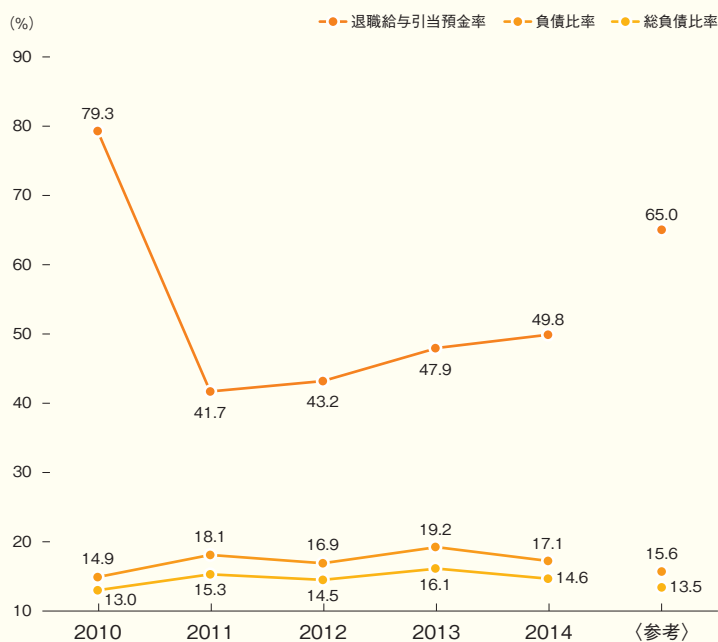


短期有価証券を減らしたこと及び流動負債の未払金が減少したことにより、流動比率は増となりました。

(参考)は、系統別が理工他複数学部の118法人平均(2013年度決算)  
「今日の私学財政 大学・短期大学編」(日本私立学校振興・共済事業団)

(注) 流動比率: 短期的な負債の償還に対する流動資産の割合で、支払能力を示す指標。この比率は高くなることが望ましい。  
基本金比率: 100%に近いほど基本金の未組入額が少ないことを示す。この比率は100%に近づくほうが望ましい。  
翌年度繰越消費収支比率: 翌年度繰越消費収支差額の総資金に占める割合。この収支差額は、支出超過であるよりも収入超過であることが望ましい。

#### ●貸借対照表の財務比率 (2)



退職給与引当預金率は、2011年度に実施した文部科学省通知に基づく退職給与引当金特別繰入(73.2億円)の影響により、大幅に低下しましたが、2014年度において概ね目標額まで改善しました。

(参考)は、系統別が理工他複数学部の118法人平均(2013年度決算)  
「今日の私学財政 大学・短期大学編」(日本私立学校振興・共済事業団)

(注) 退職給与引当預金率: 退職給与引当金に見合う資産を、どの程度保有しているかを示す指標で、高いほうが望ましい。本学の退職給与引当特定資産の計上額の目標は、退職給与引当金の50%としている。  
負債比率: 他人資金が自己資金を上回っていないかを示す指標で、100%以下で低いほうが望ましい。  
総負債比率: 負債総額の総資産に対する割合で、50%を超えると負債が自己資金を超過していることを示す。この比率は、低いほど良い。